ゆみこの議員活動報告書

2020.9.1 20

もくじ

議員辞職
女子高生ゆりこのインタビュー企画
「聴かせて、ゆみこさん」
補欠選挙に立候補を！
ありがとうございました。

◀ ホームページ https://yumiko3.net/
E メール yumiko3@mac.com ▶

〒061 - 0512 月形町市南４
☎ fax 0126-53-2611 携帯 090-7646-3837

発行日　2020年９月１日　発行人　宮下裕美子

コロナ禍のもと始めた毎月１回の連続発行は今回で最後です。議員活動を知ってもらいたくて毎回趣向を凝らしてみましたが、いかがでしたか？

この間、締め切りに追われてアイデアを絞り出すのは苦しかったのですが、新しいものを生み出す楽しさは格別でした。また、町内外から多くのご協力をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

新型コロナの終息はまだまだ先、油断なく対策しましょう。私も普段なら、みなさんのところに気軽に会いに行くのですが、この状況なので我慢しています。気になることがありましたら、ぜひ電話かメールかSNSで。いつでもどうぞ、お待ちしています。

季節の変わり目です。体調にお気をつけて。

■町長選立候補のため議員辞職します。

私、宮下ゆみこは９月22日告示、27日投開票の月形町長選挙に立候補することを決め、９月４日付けで議員辞職することにしました。昨年4月の議員選挙でトップ当選させていただいたにもかかわらず任期途中に辞職することになり、深くお詫び申し上げます。

批判を覚悟でもう一度町長選挙に挑戦しようと決意したのは、コロナ禍で社会が大きく変化している今、月形町がその波に飲まれ、取り残されるのではないかという強い不安を感じたからです。変化している今だからこそ対策を講じなければなりません。見極めをし、不必要なものを取り除いて身軽にして、将来に向けた準備と投資をしていくことが重要です。それもスピード感を持って適時的確に。つまり判断と決断の質と量、そして明確な方向性を示すことが求められます。それが今の町政運営からは・・・見えないのです。

私は議員です。町政の最終段階でチェックする役割を与えられ、良いものはそのまま、問題を感じれば修正を求め提案もしてきました。ただ、１人の議員が出来ることは限られます。多数決の中では埋没し、スピードを求められるコロナ禍では末端の軽微な部分にしか関われません。もっと政策を生み出す着想の場面から月形町のこれからのための仕事がしたいと、コロナ禍の中で強く強く考えるようになりました。

今の私には、自ら汗をかき対処する《若さ》と《行動力》、４期にわたる議員活動で培ってきた《知識》と《人脈》、そして物事を先送りせず自ら判断し決断する《覚悟》と《実行力》があります。これを月形町のために活かしたい。今はそれだけを考えています。

女子高生ゆりこのインタビュー企画

「聴かせて、ゆみこさん」

はじめまして。「まちづくり」に興味がある高校二年生のゆりこです。今日は「月形のために仕事がしたい」という月形町議会議員の宮下ゆみこさんにインタビュー。本音が引き出せるよう頑張ります！

まずは基本情報。

宮下ゆみこさんは五十三歳。栃木県鹿沼市に生まれ、宇都宮大学農学部を卒業して化学会社に就職、研究職に就きました。二十七歳のときに「農業をやりたい！」と家族で月形町に移住。それ以来二十六年間、ご夫妻で切花農家をしています。最近コロナ禍で息子さんが戻ってきて三人暮らしになったそう。他に娘さんとお孫さん一人です。

四十歳の時に月形町議会議員に初当選、月形町初で唯一の女性議員になりました。三期目途中の四年前（四十九歳）に町長選挙に立候補するも落選。二年前の補欠選挙で議員に復帰して、去年四月には四期目当選。そして今回の町長選挙に再挑戦するためにに議員辞職するとのことです。

Q　どうして移住先に月形町を選んだのですか？

A　当時二十代の私たちは、やる気はあってもお金がない（笑）小さい規模でも工夫と努力で自立できる月形町の切花農家に魅力を感じて決めました。0歳の娘を連れての移住だったので、初めての土地・初めての仕事・初めての子育てでもう大変！　台風や大雪の被害にも遭って苦労の連続でした。でも、その時々に周りのみなさんに助けてもらって、今の暮らしがあるんです。苦しいときに助けてもらって本当に感謝しています。

農業は面白いし、居場所もできたし、月形を選んで良かったです。

Q　そのあと議員になっていますが、立候補したきっかけは？

A　直接のきっかけは市町村合併問題での市民活動です。でもその前に、母親として認可保育所や学童保育所の開設運動をしたことが大きかったです。それまでは「必要なことは誰かがやってくれる」と思ってたんですが、困っている本人が声をあげて行動することが解決する一番の近道だとわかりました。それともう一つ、私たち女性や若者の困りごとを町や議会に話してもなかなか理解してもらえなくて…。やっぱり議会には多様な議員がいないと！と感じたこともきっかけになりました。

Q　議員になるって政治に参加するということですよね。ゆみこさんは政治に参加してなにをしたいのですか？

A　私が興味を持っているのは日々の暮らしに直結した地方の政治です。学生の頃は関心が薄かったのですが、子どもが生まれ移住すると関わりが出てきて、自分の住んでいる月形町を誰にとっても居心地の良いところにしたいと考えるようになって政治に参加しました。もちろん想いだけでは実現できないので、考え方や方法を学んで議員活動で実践してきました。その地方政治・地方自治の土台になるのが「情報公開」と「住民参加」です。

町民は一人一人考えを持って暮らしていますよね。その多種多様な視点や発想や経験を活かせれば困難な課題も解決できるというのが「住民参加」。それを有意義なものにするには、誰もが対等に考えられるよう同じ情報を持つことが必要です。だから「情報公開」。

「情報公開」も「住民参加」も昔から自治の土台だと言われているのに全然進みません。私は議員個人として取り組んできましたが限界です。やっぱり組織のトップとして組織全体で取り組みたい！　だから町長になりたいと思いました。月形町民は個性的で独立心が強い一面を持っています。それを活かした「まちづくり」がしたいです。

Q　「情報公開」と「住民参加」で、どんな「まちづくり」をするのですか？

A　情報公開と住民参加で「知恵を出し合う仕組み」を作ります。それを使って、この停滞した状況から新しい価値が芽吹く、フレッシュで元気な月形町にしていきます。

と、口で言うのは簡単ですが実際には難しいですよね。だから、まずは二つの方向で考えていきます。一つは「暮らしの困りごとを解決する」、もう一つは「新しい価値を生み出す」です。

私がどんな場面でも大事にしているのは「多様性」と「対等」です。社会には様々な考えの人がいます。だから、

①　暮らしの困りごとを解決する…身近なことの安心最優先！

◆六十五歳以上が四割を占める月形町。高齢のみなさんが暮らしやすい町なら、誰にとっても優しい居場所になります。日々の暮らしを町内事業者と一緒に支えます。◆子どもたちは可能性に満ちています。どんなときにも学び続けられる環境を整えます。◆生活不安がないように、役場のフットワークを軽くします。役場が若返った！

②　新しい価値を生み出す…過去や慣習を解放して、さあチャレンジ！

◆赤字の宿泊施設に注いできたお金と人を、新しい特産品づくりに振り向けます。安定した仕事と新商品で地域を活性化。定住者を呼び込みましょう。◆身近にある豊かな自然を活かした教育を。体験は人生の宝物です。◆職場としての役場、その責任者は町長です。職員が発想豊かに活き活きと仕事ができるよう、職場環境や仕事のやり方を大胆に見直します。役場を魅力的な職場に！

社会と直接つながる「議会」や「町政」や「まちづくり」は同質のもので固めるのではなく異質なものを受け入れる方が自然で、活力が出ます。そうなるとゴチャゴチャして面倒なこともあるので避けたくなるのも解らないではない。でも、思いもよらぬ発想や知恵を出すには、やっぱり「多様性」。コロナ禍で予測がつかない時代だから、なおさら「多様性」だと思っています。

そして「対等」な関係というのも重要。組織の役職や人生の先輩後輩、礼儀など、社会的な上下を意識する場面はもちろん尊重します。だけど、一人の人としては誰もみな対等です。

基本的人権の尊重とも重なりますよね。そしてこれは社会的地位の高い人こそ理解してほしいです。議会で「生意気だ！」と言われた私が言うのも何ですが（笑）

Q　最後に、高校二年生の私にアドバイスをするなら？

A　おっ！難しい質問。うーーん…

ゆりこさんへのアドバイスは「やりたいことをトコトンまで、精一杯やってみて」かなぁ。

高校生や大学生の時は体力があって、自分のためだけに使える時間もある。だから、好きなこと・やりたいことをみつけて、もうできないという限界を経験してほしい。一度体験したことは自信になるから、これからの人生で辛いときに乗り越えるエネルギーをくれると思うよ。

ゆみこさん、今日はありがとうございました。

ゆみこさんの話を聴いていたら、なんだか動き出したくなりました。誰かに頼って待つよりも、自分で行動を起こしたいって。みんながそんな風に感じて小さなことから動き出せば、きっと楽しくなりそう。月形町も変わりそう。そんな予感がしました。

みなさん、インタビューはいかがでしたか？　宮下ゆみこさんの本音が伝わったでしょうか。また機会があったら登場させてください。では、ごきげんよう。

■議員補欠選挙に立候補を！

月形町議会は私が議員辞職することで欠員１となります。通常は欠員2にならなければ補欠選挙は行われませんが、町長選挙の告示日10日前までに欠員が発生すると町長選挙と同日に議員補欠選挙が行えます。

月形町議会は去年から定数8になり議員１人の重要度が増しているところに、今はコロナ対策の巨額な交付金の使い方審議が頻繁にあります。私が早期辞職や自動失職すれば欠員期間が長くなり議会の機能に影響を与えると考え、可能な限り議員を続けられるよう金子議長に相談し調整いただいて、定例会告示日の９月４日に辞職することにしました。

この件に関して大多数の議員から理解を得られず、８月20日の全員協議会に影響が出たことは残念でなりません。立場はどうあれ「月形町の課題をどう解決するか」を議論することが私たち議員の職務だと考えています。議員として審議できなかったのは本当に心残りです。

なお、９月定例会では令和元年度決算特別委員会のほか、月形町の財政と方向性に影響する「温泉ホテル等の指定管理者指定」があり、関連で月形町振興公社の経営も話題になるでしょう。上坂町長と議会がどのように判断するのか、しっかり見届けます。

議会には様々な考えや立場の議員が必要です。それぞれの視点を持ち寄って真摯に議論することで、町政への幅広い監視と提案ができるからです。

議員補欠選挙には、新しい風を吹かせる新人が立候補してくれることを願っています。

■ありがとうございました。

私は４期目ですが出入りがあって合計11年間の議員生活でした。この間、議員の職責を果たそうと愚直に取り組み、みなさんからの意見や相談や励ましによって議員の自覚と誇りが生まれ、学びのために町外に飛び出すことで全道全国に仲間ができました。議員として充実した活動ができたのは町民のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

この議員11年間を振り返って印象に残っているのは「町内全域の光回線敷設」です。議員３年目（平成21年）に「これからの情報化社会に向けて、町内全域に高速通信網の整備を！」と提案、国の補助事業との絶好のタイミングもあって実現に至りました。この成功体験がもとになって　①常にアンテナを張り情報を集めること　②将来展望を持って施策に取り組むこと　③適時的確に判断することが、議員活動の軸になりました。その行動が未来世代に恩恵をもたらすことを今まさに実感しています。

これまでの議員活動で培った私の知識や人脈は、月形町民の財産です。だから、月形町のために役立てたいと思っています。ただ、せっかくの財産も「まだ若い」「次の機会に」と使わなければ、すぐに錆びて価値がなくなってしまうでしょう。どうか、月形町のために有効に使えるよう最適な場を与えてください。

議員はときに孤独です。だから街中での一言二言や笑顔がどんなに嬉しかったか。その瞬間に私は何度も助けられ、支えられてきました。長い間、本当にありがとうございました。